

わがまち紹介

石岡市

石岡らしさを活かして、選ばれるまちづくり

株式会社筑波銀行
石岡支店長
豊田 雅彦



石岡市長
谷島 洋司氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県石岡市です。筑波銀行石岡支店長 豊田 雅彦が石岡市長 谷島 洋司氏にお話を伺いました。

独自の魅力とポテンシャル

2020年4月に市長に就任し、1期目は新型コロナウイルス対策を最優先に、市民の命と健康、地域経済を守ることに全力を注いできました。現在は2期目の市政運営を担わせていただき、石岡市に更なる飛躍をもたらすことを目指し、「誰もが輝く未来へ 共に創る石岡市」という将来像に向けて、本市の魅力発信に努めています。

本市の「石岡地区」と「八郷地区」は、それぞれ独自の魅力とポテンシャルを有しています。石岡地区は、約1300年前の奈良時代に常陸国府が置かれ、国衙や国分寺・国分尼寺をはじめ全国的にも貴重な史跡が数多くみられます。また、関東三大祭りの一つである「石岡のおまつり」は特に有名で、2024年には3日間で約53万3,000人と過去最多の来場者を記録し、2025年にも多くの方にお越しいただきました。一方、八郷地区は豊かな里山環境に恵まれ、「にほんの里百選」にも選ばれています。地形的には関東平野では稀な盆地を形成し、山間部から平地まで変化に富んでおり、気温や日照時間などの条件が異

なることから多種多様な作物が生産されています。また、スカイスportsやトレイルランなどが一年中楽しめることも魅力です。今後は、これら石岡地区と八郷地区の魅力を複合的に活かすことでまちの活性化を図っていきます。

人口減少対策プロジェクト

本市が直面する課題は、人口減少にどのように対応していくかです。2005年に旧石岡市と旧八郷町が合併し、昨年は新石岡市として市制施行20周年を迎えました。合併当時8万人以上いた人口は、現在7万人を割っており、この20年間で1万人以上も減ったこととなります。人口減少は様々な局面で地域経営に影響を及ぼすため、非常に危機感を持っています。そこで、2024年3月に策定した石岡市総合計画・第2期基本計画内に、新たに「人口減少対策プロジェクト」を掲げました。6つのライフステージを設定し、切れ目のない支援に取り組んでいます。

STAGE1は結婚・新婚世帯支援、STAGE2は妊娠期・出産支援、STAGE3は乳幼児期の支援、

STAGE4は小学生・中学生への支援、STAGE5は高校生・大学生・社会人への支援、STAGE6は移住・定住支援として、それぞれに合わせた支援メニューを提供しています。

例えば、STAGE5の高校生・大学生・社会人への支援の中では「通学者・通勤者の定期券・特急券購入補助事業」を実施しています。大学進学や就職のタイミングで転出される方が多いことから、通学・通勤に係る経済的負担を軽減することで転出抑制を図っています。多くの利用者から非常に好評なうえ、近隣市町からも注目されており、移住推進につながる効果も期待できます。

STAGE6の移住・定住支援の中には「石岡暮らし体験」があります。これは、移住を考える方が先輩移住者を訪ね、体験談を聞いたり実際の暮らしを体験したりすることで移住のハードルを下げる取り組みです。また、若者や子育て世帯(特にUターン)の転入者に対する「住まいに関する助成事業」、一定の条件を満たす方に支給される「移住支援金」などがあります。こうした支援事業の案内をはじめ各種相談窓口として、石岡市移住定住コーディネーターを設置しています。

このような支援を適切なタイミングで実施していくことで、市内で暮らす方にも、市外からお越しいただく方にも、本市を選んで住み続けてもらえるような魅力あるまちづくりをしていきます。



「石岡暮らし体験」の様子

民間の力を活用して 観光を盛り上げる

本市は、歴史、まつり、自然、スポーツなど多彩な観光資源が揃っています。しかしながら、大勢の人が訪れても、宿泊場所(ホテル)が少ない、お土産ものが揃う施設がない、道の駅がないなど、経済波及効果がみえにくいという問題を抱えていました。そこで、地元経済が潤うような観光の仕組みづくりをしていきたいと考え、2024年4月に観光協会を法人化しました。

すでに、石岡のおまつりで特別観覧席の企画販売や、カプセルトイマシンを活用した缶バッジ等の企画

販売などを手がけています。また、“激坂”と呼ばれる過酷なコースで話題の石岡つくばねハーフマラソン大会や、山道もコースに含まれるトレイルラン大会など、石岡独自のスポーツイベントで商品提供等を受託するなど、法人化により事業の幅が広がっています。さらに、旅行業に登録したことにより、地元に着した旅行商品(ツアー)等の企画販売が可能となっており、今後の活動に大いに期待しているところです。

観光分野への民間活力の導入については、石岡市ふれあい交流施設「やさと温泉ゆりの郷」を、今年4月1日から民間事業者へ譲渡することが決定しました。その経緯について、まず温泉施設の魅力向上及び周辺観光の活性化を図るため、施設譲渡に向けて公募型プロポーザルを実施し、そこで選定されたのが、指定管理者として運営にあたってきた「やさと農業協同組合」です。そして建物等は無償譲渡、土地については無償貸付とすることが決まりました。これにより、例えば施設の改修、団体客の受け入れ・食事提供など、独自のアイデアでスピード感を持って取り組めるようになります。今後、他の施設についても同じように民間事業者へ力を発揮していただく考えです。



筑波山麓にある「やさと温泉ゆりの郷」

観光は外から人を呼ぶだけでなく、ふるさとへ人を呼び戻す力も持っています。特に石岡のおまつりは、子どもの頃は学校が休みになるのが当たり前、大人になっても帰省したり家族が集まったりするのが当たり前という意識が市民に浸透しています。以前、ある大学の先生がグローバル社会についての講話の中で、石岡のおまつりの映像を流し、「イギリスに留学している人が、おまつりの時だけは帰国する。ふるさとが人を引き付ける力は大きい」という逸話を紹介してくれたことがありました。石岡のおまつりを大切にしていくことによって、関係人口や交流人口を確実に増やしていけるでしょう。今年4月20日には市制20周年を記念して大相撲石岡場所が開催されますが、実は石岡のおまつりのルーツは常陸國總社宮の奉納相撲とも言われています。そういう歴史を有するまちなので、この機会に子どもたちにも相撲に親しんでもらいたいですし、将来的には本市出身の力士を送り出すことができればと夢見ています。

上曾トンネル開通の大きな効果

2025年9月に、上曾トンネルが開通しました。これは、石岡市上曾と桜川市真壁町山尾を結ぶ総延長5.58kmの道路整備事業で、石岡市区間延長は2.95km(うちトンネル1.94km)です。事業の背景には、上曾峠を含む上曾から山尾までの道幅が狭いうえカーブや急勾配が多く、大型車の多くが迂回を余儀なくされ、台風による倒木や積雪で通行止めになるなどの問題がありました。今回、上曾トンネルが開通したことにより大きな効果が出ています。まず、上曾峠の通過以前は約17分かかっていましたが、トンネルを利用すると約7分に短縮されます。峠道での車両のすれ違いがなくなり、安全性も向上しました。また、トンネル開通前の上曾峠の交通量は1日平均1,431台(7時~19時・12時間交通量)でしたが、開通2か月後には5,441台と大幅に増え、人流と物流が活発になっています。



上曾トンネルが開通

駅周辺の発展を象徴する 2大プロジェクト

まちの賑わいづくりについてですが、石岡駅の西口では複合文化施設(市民ホール)の整備計画が進んでおり、東口ではイオンの再出店が決定しています。この2つの事業が、駅周辺の今後の発展を象徴するように思います。

もともと西口の中心市街地には、長年にわたり市の文化芸術や市民活動の発表・鑑賞の場となってきた市民会館がありましたが、2020年3月に閉館しました。その役割を引き継ぐのが、新しい市民ホールです。文化芸術の拠点かつ市民交流の拠点として、多目的に利用できるよう計画されています。文化芸術の求心力によって幅広い世代の市民が集まり、豊かな人間性や創造性を育む施設になると考えています。

一方、東口では、旧イオン石岡店が前身のジャスコ時代から30年以上にわたり営業を続けてきましたが、2019年2月に閉店しています。その後、多くの市民から「イオンが復活してほしい」という強い要望が寄せられていました。そうした状況を受け、2025年10月、地域の活性化と市民サービスの向上を目

的として本市とイオン株式会社が包括連携協定を締結。その際、旧イオン石岡店の跡地に、2028年度中の新店舗出店が発表されました。市民の皆さんが待ち望んでいたイオンの再出店が叶い、私も大変うれしく思っています。

工業と農業の産業振興策

本市の産業発展については、市民の雇用の場の創出はもとより、持続可能な自治体運営の観点からも非常に重要です。45の企業が操業している柏原工業団地は、完成から50年が経ちます。東京圏に近接し、電車でも車でもアクセスしやすいため、産業集積の拠点となっていますが、現在空いている用地がなく、新たな企業の進出や既存企業の増設が難しくなっています。そのため、柏原工業団地周辺に工業系の地区計画の策定を進めており、新たな産業集積地域の形成につなげようとしています。

既存企業の支援については、上水道を多く使用する製造業への水道料補助金や、新設・増設時に市民を雇用した場合に交付する補助金、地元の高校生と企業をマッチングする就職支援など、企業の継続的な操業に役立つ支援を行っています。今は人手不足が深刻な時代ですが、都会からUターンする方や地元の若い世代に選ばれるような企業を積極的に誘致していきたいと思っています。

また本市では、産業振興の主要な柱の一つとして地域ぐるみで有機農業を推進しています。主な取り組みとして、2024年に市内の小学校、保育所・幼稚園等、特別支援学校の児童4,593人に有機野菜セットを配布し、2025年には学校給食への有機農作物の提供を拡充しています。11月17~21日の週は特別期間「いしおか有機ウィーク」として、通常よりも多くの有機農作物を利用したメニューを児童たちに提供しました。子どもたちに安全・安心な食を提供する取り組みは、今後も継続してまいります。それにより、「安全・安心な食のまち」と親世代の皆さんに認識していただくことが、選ばれるまちにつながると考えています。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんは、地域に密着した金融機関というだけでなく、蓄積された知見を活かした提案をいただくなど、本市の地方創生に欠かせない存在となっています。今後も金融の専門家という立場から、地元企業への支援や創業支援など、行政だけではカバーしきれない分野への提言やサポートをいただき、地方創生をより一層推進できるよう、引き続きご協力をお願いいたします。

(取材日:2026年1月9日)

石岡市 わがまちの ブランド戦略

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

「石岡セレクト」 認証品



地域経済の活性化と市の魅力発信を目的として、石岡市の特産物や土産品、伝統工芸品などの中から、特に優れた商品を選定する「石岡セレクト」。令和7年度の認証品をご紹介します。



岡田ファーム

獅子米 ゆうだい21

「あなたを選ぶ日本一おいしいお米コンテスト」最優秀金賞受賞。豊かな甘みと旨み、粘りとモチモチ感が魅力です。



GHK株式会社(甘藷農園 燈屋)



姫蜜やき芋

低温でじっくり焼き上げた紅はるかの、甘くしっとりとした食感をご堪能いただけます。

半熟スイートポテト



自社農場で収穫した紅はるかと、茨城県のブランド卵・奥久慈卵を使用。濃厚でクリーミーな味わいです。

平干し芋



温度湿度を徹底管理した特別な倉庫で熟成・貯蔵。無添加の自然で優しい甘み特徴です。

株式会社サシノベルテ(SBワークス石岡)

焼き芋チップス

無添加、ノンオイル、ノンフライで体にやさしく、サクサクとした口当たりと素材の甘味をお楽しみいただけます。



木内酒造株式会社 [販売所]八郷蒸溜所 ビジターセンター

常陸野ハム BARREL SMOKE シリーズ

八郷で育った上質な豚を、ウイスキー熟成に使用したオーク樽チップでスモークし、芳醇な香りと旨みを引き出しました。



Sumiya

Sumiya あげもち



玄米だし醤油、玄米七味、玄米黒こしょう、ふわっと青のり、ふわっとえび、ふわっと山芋の6種類を揃えています。



Sumiya 五色もち

青のり、玄米、みかん、たかきび、紅生姜が織りなす彩りと、ふんわり広がる風味をお楽しみください。

株式会社たなか農園・ペトラン

ビスコッティ



八郷産平飼い卵に茨城県産小麦、オーガニック素材のドライフルーツを使用。一口食べると卵の風味が広がります。

グラノーラ



石岡市産の米粉と季節のドライフルーツやナッツを贅沢に使用。香ばしく優しい味わいが魅力です。



自家製にんじん酵母パン (バケット・カンパーニュ)

畑で採れたにんじんから起こした自家製天然酵母のもっちりとした食感と小麦の旨みをお楽しみください。



株式会社グリオット(プティグリオ)



いしおかサンド 石岡栗のオムレット

刻み栗の食感に、八郷産の栗の豊かな香りと上品な甘さがお口いっぱいに広がります。



石岡カヌレ

石岡鈴木牧場の牛乳と八郷産の卵を使用した、香り高く優しい味わい。外側はパリッ、内側はもっちり仕上げました。

詳しくは、石岡市のホームページをご確認ください

